

CACHE-A

アーカイブアプライアンス ソフトウェアv3.0.8 リリースノート

バージョン 3.0は、64ビット版のエンタープライズ向けLinux (Cent OS 6.2) 上でCache-A全ての機能を利用可能にするためのソフトウェアリリースです。また、新しく改良されたCache-Aハードウェア (Intel iシリーズ CPU搭載) の機能を利用するためにも必要です。詳細な内容については、このリリースノートをご覧ください。

このソフトウェアでシステムを運用する際は、必ず最新のドキュメントを参照してください。
最新版のソフトウェアに対応したマニュアル (英文) は、Webユーザーインターフェイスの「バージョン」ページ上にあるManualボタンから確認できます。

このリリースおよびバージョン2.1に含まれる追加機能および改善点

Power-Cacheの機能に対応

- ・ 最大4台までのLTOドライブを制御して同時に利用することが可能になりました。
- ・ 接続されているドライブの台数とライブラリの有無を自動的に認識することができます。
- ・ 「バージョン」ページ上に接続されている機器とリビジョンが表示可能になりました。
- ・ 4台までのハードディスクによるRAID0およびRAID5までのRAID構成に対応しました。
- ・ RAID構成とステータスを表示するための「RAID設定」タブがシステムツールページに追加されました。
- ・ 独立したSSDドライブからの起動をサポートし、高速なシステムアクセスとアーカイブデータの転送による挙動の緩慢化を解消しました。
- ・ 内蔵の10ギガビットイーサネットポートをサポートし、合計4つのイーサネット (10GbE x2、1GbE x2) を制御することが可能になりました。

改良されたステータスレポート

- ・ アーカイブまたはリストアジョブが進行中の場合、転送の概要上部に新しいステータス行が表示されるようになりました。この行には追加されたキューのファイル数や容量、システムがジョブに消費している時間などが表示されます。また、プロセス中に発生したエラー数も表示されます。

新しいネットワーク設定ページ

- ・ ネットワークポート毎の設定が可能になり、起動時にアクティブにするかどうかや、追加のステータスを個別に表示するようになりました。

※各ポートは別々のサブネットに設定する必要があります。ボンディングは未対応です

Mac OS X LionおよびMountain Lion (10.7と10.8) からAFP接続する際に発生していた問題は修正され、Mac OS側で初期設定の変更を行う必要がなくなりました。

このバージョンはv2.1から操作上の変更がないため、ユーザーズマニュアルはまだ更新されていません。

v3.0.7以前の3.0系Cache-Aソフトウェアで発生していたHFS+フォーマットの外付けドライブのマウントに関する問題は解消されました。

CACHE-A

アーカイブアプライアンス ソフトウェアv3.0.8 リリースノート

運用上の注意点

問題：v2.1で追加されたジョブキューイング機能には予期しない副次的な問題を発生させる可能性があります。

警告：アーカイブセッションの実行中に別のアーカイブを開始しようとしないでください。

既知の問題

新しい問題：

問題：外付けドライブを直接Cache-Aシステムに接続した場合、Cache-A共有の「LocalStorage」フォルダー内に表示されなくなりました。

回避方法：外付けドライブの内容を管理する場合は、ファイルマネージャーを使用するか、クライアントPCに直接接続して行なってください。

以前のバージョンから続く問題：

問題：Power-Cacheライブラリを使用している場合、バーコードが貼られていないテープのインベントリの際にテープが表示されなくなります。

回避方法：Power-Cacheライブラリでは常にバーコードが貼られたテープを使用してください。

問題：ソフトウェア的に破損したテープの修復にはサポート窓口への連絡が必要な場合があります。

※v2.0以降ではいくつかのTOCの問題は自動的に修復されるようになっていますが、全てのケースでこの機能が正常に動作するわけではありません。

回避方法：テープ上のコンテンツやTOCの修復、復元を行うために、サポート窓口に連絡してください。

問題：MacOSフォーマットの外付けストレージデバイスへの書き込みは、[Mac OS 拡張 (大文字/小文字を区別、ジャーナリング無し)]フォーマットに限られます。

回避方法：MacOSフォーマットの外付けストレージデバイスへ書き込む必要がある場合、あらかじめディスクユーティリティを使って、「Mac OS Extended、Case-Sensitive」[Mac OS 拡張 (大文字/小文字を区別)]フォーマットに設定してください。読み込みはどのMacOSフォーマットであっても可能です。

問題：HFS (Macintosh) でフォーマットされた外付けストレージのボリュームで、2TBの容量を超えているものを本体に接続しても、中のデータが正常に表示されないことがあります。

回避方法：2TBを超える大きな容量のストレージはお使いのパソコンに接続して、該当のファイル/フォルダをネットワーク経由で本体にコピーを行って下さい。

問題：テープスパンニングを使用する際、テープをまたいで書き込まれたファイルで、かつファイル名/フォルダ名が100文字以上（半角でカウント）だった場合、そのファイルだけを個別にリストアすることはできません。

回避方法：長すぎるファイル名/フォルダ名を使用しないで下さい。もしそのようなファイルがあった場合、個別ではなくRecover-All (全てをリストア) でリストアを行って下さい。ファイル名/フォルダ名が100文字以上のファイルでも、テープスパンニングを使わず1つのテープにアーカイブしたものであれば個別にリストアすることはできます。

問題：SMB (Windows) を経由すると、4GBを超えるファイル/フォルダをVTAPEへ正常に移動できなかったり、リストアした4GB以上のファイルをVTAPEから移動できない問題が起きます。しかもこれは、ファイルの移動先のLTFSボリュームや外付けストレージデバイスに深刻な影響を与えます。

回避方法：Cache-AのWebユーザーインターフェイスを使って移動を行って下さい。またAFP (Macintosh) 経由ではこのような問題はおきないことが確認されています。

CACHE-A

アーカイブアプライアンス ソフトウェアv3.0.8 リリースノート

問題：Unicode (international) を使ったファイル名には、カタログ検索が正常に動作しないことがあります。
回避方法：一般的な文字コードをお使い下さい。

問題：テープのボリューム名に丸括弧が含まれると、アーカイブの失敗が起こります。
回避方法：テープのボリューム名に丸括弧を使用しないで下さい。

問題：複数のテープをまたいだボリュームの名前を変更すると、そのボリュームが破損する可能性があります。
回避方法：複数のテープをまたいだボリュームの名前は決して変更しないで下さい。必ずマニュアルの指示に従って下さい。

問題：カタログ共有のクライアント側からアーカイブを行う際、カタログ共有のマスターへの通信が途切れてしまうとアーカイブの失敗が起こります。
回避方法： マスターへの通信を回復させ、そのアーカイブを完了させて下さい。もし通信断が長時間におよぶ電力不足やネットワーク障害が原因で起きていた場合、電力およびマスターへの通信を完全に回復させた後に、クライアント側のTape Managerを再起動してから再度アーカイブを行って下さい。

問題：推奨されない文字列をファイル名に使用した場合、アーカイブやクロスプラットフォーム環境での問題になる可能性があります。
回避方法： 回避方法はありません。Windowsの標準的な命名規則に従うことを推奨します。

- ・ Cache-Aはファイル名内の制御文字を扱うことができません。これにはCR、NULL、LFが含まれます。
- ・ ファイル名に次の特殊文字を使用することは避けてください。 <>: " / \ | ? * %
- ・ ファイル名の最初と最後にスペースやピリオドを使用しないでください。スペースは全ての位置に使用しないことをお勧めします。

CACHE-A

アーカイブアプライアンス ソフトウェアv3.0.8 リリースノート

LTFSでの運用上の注意点

注意点：「全てをリストア」機能はLTFSではご利用いただけません。

対策：FinderやWindows Explorerなどを使用し、リストア先のフォルダを作成してから、ファイルマネージャーで全てのファイルをドラッグアンドドロップして下さい。

注意点：何らかの理由でLTFSにエラーが発生した場合、LTFSインデックスとCache-Aカタログの不整合が発生する可能性があります。

対策：ターミナル操作でLTFSボリュームの“.tapetoc.xml.gz”ファイルを削除し、テープをイジェクト後にCache-A上の該当テープのカタログを削除してください。テープを再度挿入すると、TOCが再構築されます。

注意点：LTFSではテープスパンニング機能をご利用いただくことができません。

対策：1.5TBより大きなアーカイブを作成する場合は、Cache-A (TAR)フォーマットのテープを使用してください。

注意点：LTFSでは、「テープを複製」機能がご利用いただけません。

対策：全てをCache-A共有にリストアしたあとに、手動で新しいコピーを作成して下さい。

注意点：Cache-A共有にマウントされているLTFSボリュームをMac FinderやWindows Explorerを使用してブラウズすると、頻繁にテープへのアクセスが発生し、結果として全てのファイルを表示するまでに長い時間を要するため、選択されたディレクトリを読み込むまでの間、FinderやExplorerがハングアップしてしまう場合があります。

対策：Mac FinderやWindows Explorerを使用する場合は、必ずリスト表示を使用して下さい。

注意点：Mac FinderやWindows Explorerを使用してLTFSボリュームからのリストアを行う場合、一度に2〜3ファイルに留めてください。FinderやExplorerはファイルがテープのどの位置にどのような順で記録されているかを考慮しません。

対策：複数のファイルをリストアする場合は、Webインターフェイスのファイルマネージャを使用してください。

注意点：LTFSボリューム内では、ファイルを移動することはできますが、フォルダを移動することはできません。

対策：対策はありません。フォルダの移動はサポートされていません。Cache-Aでは、アーカイブはテープに記録する前に整理し、一度テープに記録したものはそのまま保管することを推奨します。

注意点：アプリケーションを使用して、LTFSボリュームから直接ファイルを開いたり、変更を加えて保存することは可能ですが、その挙動は非常に遅くなります。

対策：対策はありません。LTFSはユーザーに対してそのような使用方法を提供しますが、テープはリニアなため、このような作業には向いていません。Cache-Aは、決してLTFSボリュームを作業用ストレージとして使用しないよう推奨します。

注意点：Mac OS 10.6 (Snow Leopard) には、LTFSボリュームにフォルダをドロップすると、名前付きストリームを参照しようとして“Error -50”を表示する問題があります。

対策：Apple Knowledge Baseにあるようにこの問題を解消する必要があります。

http://support.apple.com/kb/HT4017?viewlocale=ja_JP:

Mac OS X に管理者ユーザアカウントでログインしてから、ターミナルで以下の2つのコマンドを実行します。

```
echo "[default]" | sudo tee -a /etc/nsmb.conf
```

```
echo "streams=no" | sudo tee -a /etc/nsmb.conf
```

CACHE-A

アーカイブアプライアンス ソフトウェアv3.0.8 リリースノート

リリース詳細：

- V3.0.5 最初のv3.0リリース。ベータのみ。
- V3.0.6 Windowsからの転送でリソース不足に陥る問題を修正
Cent OSのバージョンによるAFPマウントの問題が修正されました
- V3.0.7 アポストロフィを含むホストネームに起因するAFPの問題およびログ記録の問題を修正
外部制御によって発生する問題のためにAPIをアップデート
USBメモリからのインストールプロセスで発生するRAID設定の問題を修正
VTAPEとTransferLog.txtで発生するApple Linksの問題を修正
多数のファイルを含むリストアセッションの際に発生していた遅延の問題を修正
- V3.0.8 ドラッグアンドドロップで開始されたLTFSAーカイブセッションで発生していた遅延の問題を修正
稀に発生する可能性のあるTOCエラーとハングアップを防止するためにコマンドキューイングを無効化
HFS+フォーマットの外付けドライブに対応（まだ2TBのボリュームサイズ上限と、大文字小文字を区別するジャーナリングオフ設定にしなければ書き込めない制限が存在します）